

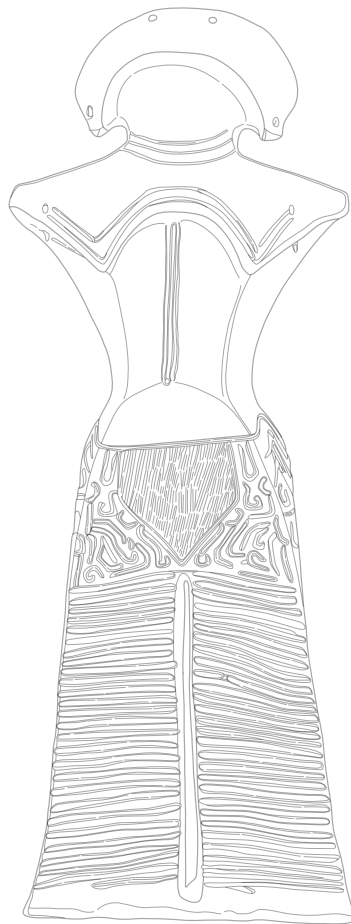
ISSN1341-397X

年 報

令和3年度

令和4年5月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、また平成24年からは公益財団法人として、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業につきましては、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、3遺跡3件の発掘調査と延べ5遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、2冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、現在進められつつある高速道路の県境部分の整備やこれからの県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、今年度から山形県の委託を受け、『出前授業』や『市町村巡回展示』『発掘作業体験』『遺跡体感ツアーリズム』などの事業を実施してまいりました。昨年度から続く新型コロナウイルス感染が終息しない中ではありましたが、感染防止対策を充分に取り、多くの県民から御参加をいただきました。また、SNSやホームページによる情報発信、発掘調査遺跡の調査成果一般公開、発掘調査速報会などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆様にお知らせしてまいりました。今後とも埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢を以て、今できることを工夫して普及啓発事業を推進してまいります。

山形県埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えていけるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

令和4年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長 齋藤直樹

目 次

I. 管理運営概要

1. 沿 革	1
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	1
(2) 職制及び人員	2
(3) 組 織	2
(4) 職 員	3
3. 施 設	4

II. 業務概要

1. 調査業務	5
(1) 調査遺跡一覧	6
(2) 調査遺跡の概要	
杉沢 C 遺跡 第 2 次	8
水林下遺跡 第 2 次	12
山形城三の丸跡 第 22 次	16
上曽根遺跡	18
川前 2 遺跡	19
2. 普及・啓発・研究等業務	
(1) 研修等	20
(2) 普及啓発	
①センター公開事業	20
②発掘調査速報会	21
③市町村巡回展示会	21
④出前授業	22
⑤体験学習会	23
⑥遺跡体感ツアーリズム	23
⑦出土品貸出等	24
⑧資料掲載許可	24
⑨来所者	25
⑩調査成果一般公開	26
⑪職員派遣等	26
⑫研究紀要	27
⑬出版物	27
⑭ホームページ	27
⑮ SNS 情報発信	27
(3) 情報処理	
収蔵図書データベース	27

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大切です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成5年4月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成24年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

平成27年度に新たに策定された第6次山形県教育振興計画では、『人間力にあふれ、山形の未来をひらく人づくり』を基本目標に掲げ、『「いのち」をつなぐ人』、『学び続ける人』、『地域とつながる人』の三つを目指す人間像としています。埋蔵文化財については、『主要施策15 山形の宝の保存活用・継承』の中で、その保護と活用、ならびに（公財）山形県埋蔵文化財センターとの連携の強化が謳われています。

今年度、当センターでは山形県からの委託を受け、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「出前授業」、「市町村巡回展示」、「発掘調査速報会」、「ホームページとSNSによる情報発信」、「遺跡発掘作業体験や見学を受け入れ」、「考古学講座」の実施などの普及啓発活動にも力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	齋藤直樹	山形県観光文化スポーツ部 部長
専務理事	齋藤 稔	財団常勤役員
理事	渋谷孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 館長
理事	江袋一宏	公益財団法人山形県生涯学習文化財団 専務理事
理事	石川由美	一般社団法人山形県医師会 事務局長
理事	遠藤健悟	山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財活用課 課長
監事	棚野哲郎	税理士有資格者
監事	西堀公司	山形県観光文化スポーツ部観光復活戦略課 課長

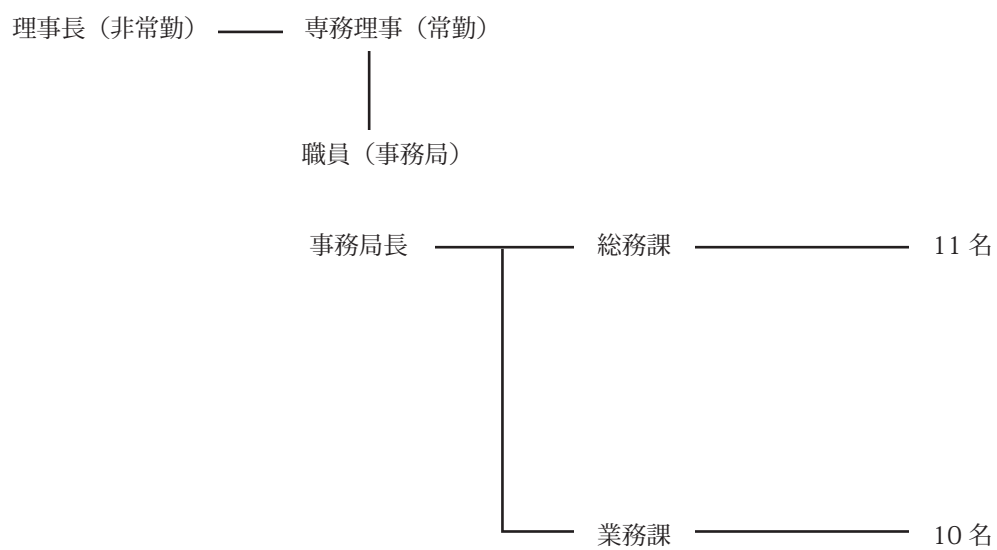
評議員	遠藤友紀	公益財団法人米沢上杉文化振興財団主任学芸員
評議員	佐藤庄一	山形考古学会 会長
評議員	大類 誠	尾花沢市文化財保護審議員
評議員	佐藤仁喜弥	特別法人山形県住宅供給公社専務理事
評議員	本間 豊	公益財団法人致道博物館理事（兼）学芸部長
評議員	草 大輔	山形県農林水産部農村整備課 課長
評議員	常井公一	山形県県土整備部道路整備課 課長

(2) 職制及び人員

事務局長	1 名
課 長	1 名
課長補佐	1 名
総務専門員	(1 名)
調査研究専門員	4 名 (内 1 名兼務)
専門調査研究員	4 名
総務主査	1 名
主任調査研究員	4 名
事務主任	1 名
企画主任	1 名
事務員	4 名
計	21 名

(3) 組織

役員（理事会）



(4) 職 員

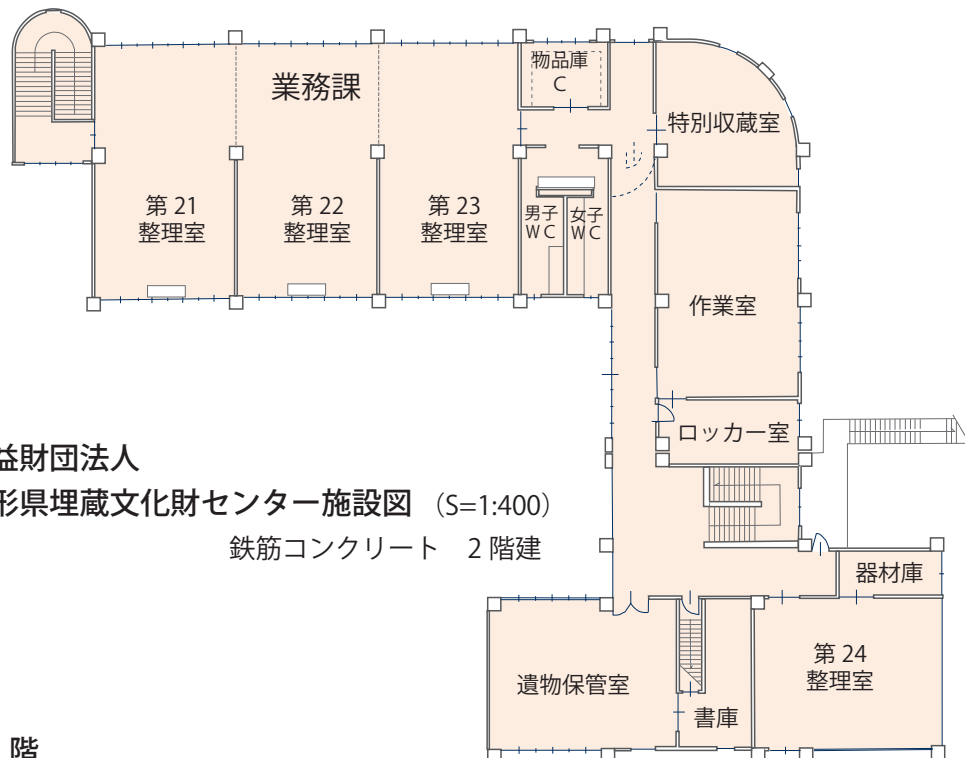
課 名	職名	氏名	所属
総 務 課	事務局長（兼）総務課長	伊藤邦弘	財団職員
	課付調査研究専門員	齊藤主税	財団職員（公財）千葉県教育振興財団出向
	総務主査	水戸部秀樹	財団職員
	課付専門調査研究員	高桑 登	財団職員（公財）千葉県教育振興財団出向
	課付主任調査研究員	天本昌希	財団職員（公財）福島県文化振興財団出向
	事務主任	石澤治雄	
	企画主任	黒坂雅人	
	事務員	川上ひろ子	
	事務員	梅津里枝	
	事務員	柳原 恵	
	事務員	後藤枝里子	
業 務 課	課 長	須賀井新人	財団職員
	課長補佐（兼）調査研究専門員 （兼）総務課総務専門員	高桑弘美	財団職員
	調査研究専門員	氏家信行	財団職員
	調査研究専門員	小林圭一	財団職員
	専門調査研究員	植松暁彦	財団職員
	専門調査研究員	齋藤 健	財団職員
	専門調査研究員	菅原哲文	財団職員
	主任調査研究員	大場正善	財団職員
	主任調査研究員	草野潤平	財団職員
	主任調査研究員	渡辺和行	財団職員

3. 施 設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成 24 年 11 月末まで、山形県上山市弁天二丁目 15 番 1 号にて業務を行ってきましたが、施設の老朽化と防災上の問題のため、同年 12 月 1 日より、山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地に移転しました。

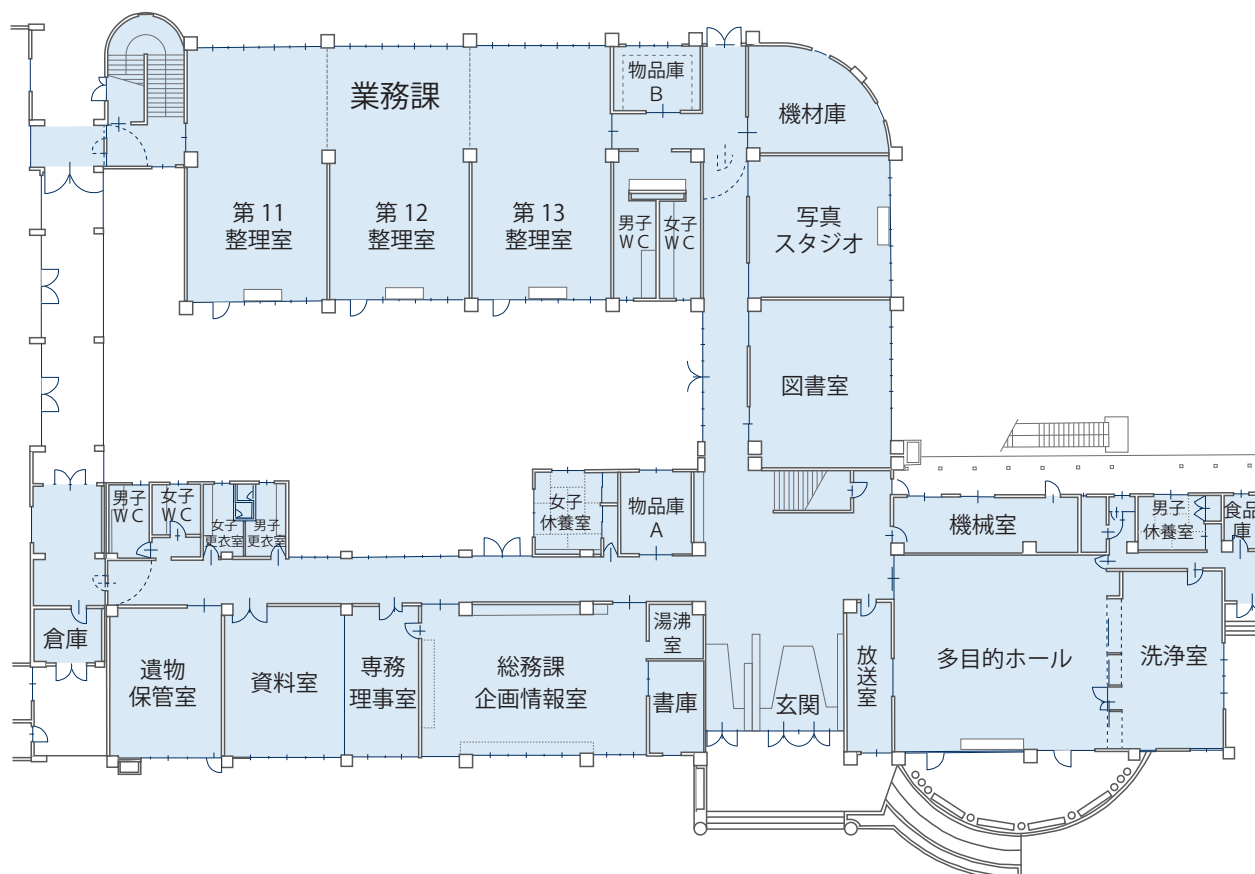
現在当所の施設は、以下の通りになります。

2 階



公益財団法人
山形県埋蔵文化財センター施設図 (S=1:400)
鉄筋コンクリート 2 階建

1 階



Ⅱ 事業概要

1. 調査業務

令和3年度は、国土交通省および山形県から委託を受け、道路建設と農地整備事業に先だつての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は3遺跡3件について行い、総面積は4,400㎡になります。出土品は、土器等50箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ5遺跡について実施し、その内2遺跡2冊の発掘調査報告書を刊行しました。

令和3年度 発掘調査遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種類	調査期間
1	すぎさわしー 杉沢 C 遺跡 (第2次)	遊佐町	縄文 中世・近世	集落跡	6月22日～9月10日
2	みずばやしした 水林下遺跡 (第2次)	遊佐町	旧石器・縄文 奈良・平安 近世	集落跡	6月15日～11月30日
3	やまがたじょうさんのまる 山形城三の丸跡 (第22次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡 城館跡	6月21日～10月28日
4	かみそね 上曽根遺跡 (第3次)	酒田市	奈良・平安 近世	集落跡	
5	かわまえ 川前2遺跡 (第5次)	山形市	古墳 奈良・平安	集落跡	



杉沢 C 遺跡

調査面積 ：平方 m	文化財認定 箱数：箱	起因事業〈委託者〉	業務内容			調査経費：円
			発掘	整理	報告書	
1,160	12	農地整備事業 (杉沢前田地区) 〈県農林水産部〉	○	○	—	81,000,000
2,410	11	日本海沿岸東北自動車道 (遊佐象潟道路) 〈国土交通省〉	○	○	—	75,189,400
830	27	山形広域都市計画道路事業 3・2・5 旅籠町八日町線 〈県県土整備部〉	○	○	—	53,848,300
		一般国道 344 号道路改築事業 (安田バイパス) 〈県県土整備部〉	—	○	○	27,368,000
		須川河川改修 〈国土交通省〉	—	○	○	22,946,000
4,400	50					260,351,700



水林下遺跡

すぎさわ 杉沢 C 遺跡（第 2 次）

遺跡番号 461-145

調査回数 第 2 次

所在地 山形県飽海郡遊佐町杉沢字北ノ前・中田地内

北緯・東経 39 度 0 分 39 秒・139 度 57 分 58 秒

調査委託者 山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財活用課 庄内総合支庁産業経済部農村整備課

起 因 事 業 農地整備事業（経営体育成型）杉沢前田地区

調査面積 1,160m²

受託期間 令和 3 年 5 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

現地調査 令和 3 年 6 月 22 日～9 月 10 日

調査担当者 小林圭一（現場責任者）・菅原哲文・草野潤平

調査協力 遊佐町教育委員会、月光川土地改良区、山形県教育庁庄内教育事務所

遺跡種別 集落跡

時 代 縄文時代、中世、近世

遺 構 溝跡・土坑・柱穴・河川跡

遺 物 縄文土器・石製品・陶磁器・金属製品（文化財認定箱数：12 箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

杉沢 C 遺跡は山形県の北西端に当たる遊佐町杉沢地区に位置する縄文時代と中・近世の複合遺跡である。鳥海山南麓の小盆地を西流する月光川支流の熊野川の左岸に立地しており、1953（昭和 28）年に石囲いの中から横臥した状態で、完形の土偶が発見されたことで有名な杉沢 A 遺跡からは、600 m ほど東に離れている。また対岸には 1978（昭和 53）年に国の重要無形文化財に指定された番楽（山伏によって舞われる神楽）の「杉沢比山」の舞台となる熊野神社が位置している。

調査区は熊野川南岸に沿っており、全体が旧河道跡上に営まれていた。河道が埋没する過程において、縄文時代以降の活動の痕跡が確認され、縄文時代中期中葉大木 8a 式、後期前半（南境式・宝ヶ峯式）、晩期後半大洞 C2 ～ A' 式の土器がまとまって出土した。中期の土器は調査区南側の黒色土、後期の土器はその北側の褐色土、晩期の土器は調査区西側の熊野川に近い褐色土から出土しており、年代が下るに従って川に近づく傾向が看取される。特に晩期は杉沢 A 遺跡の土偶の時期（大洞 C2 新式）に相当しており、同遺跡との関連性が想起される。縄文土器は装飾の乏しい半精製や粗製土器が大半を占め、掘り込まれた遺構が確認できなかったことから、川辺の作業場としての遺跡の性格が推定される。スス状の黒色付着物があり、天然アスファルトを精選したと思われる土器も出土している。

近世では建物の柱穴と思われるピットが D 区で多数検出された。多くに柱痕跡が見られ、辛うじて残存した木材の年代を測定したところ、江戸時代前期頃の測定値（320 ～ 350 年前）が得られている。調査区域に鳥海山で修行する山伏の宿坊があったことを示す絵図が残されており、「別当坊」と「宝前坊」の宿坊名があり、それ

を裏付ける成果を得ることができた。E 区の北側では、水路と見られる溝跡を検出したが、板材を固定したと思われる杭列が確認できた。

まとめ

杉沢 C 遺跡の発掘調査では、鳥海山麓の豊かな自然環境の中で、縄文時代中期から晩期にかけて、生活が営まれていた様相をさらに明らかにすることができた。鳥海山麓の恵まれた資源を十分に利用して、川辺での作業を

執り行っていたのであろう。

中・近世では、鳥海修験の拠点として当地が機能しており、今回の発掘調査でも宿坊の痕跡と推定される柱穴群を多数検出した。

杉沢 C 遺跡は河道に形成された集落跡であり、第 1 次調査区の周囲を調査したが、今回の調査で河道の広がりや土層の堆積の状況をより詳しく確認することができた。



写真 1 調査区から鳥海山を望む



写真 2 D 区柱穴群検出状況（西から）



写真 3 D 区柱穴群検出状況（東から）



写真 4 D 区旧河道跡土層位断面（西から）



写真 5 E 区縄文時代晩期土器（RP106）出土状況



写真 6 E 区縄文時代後期土器（RP110・111）出土状況

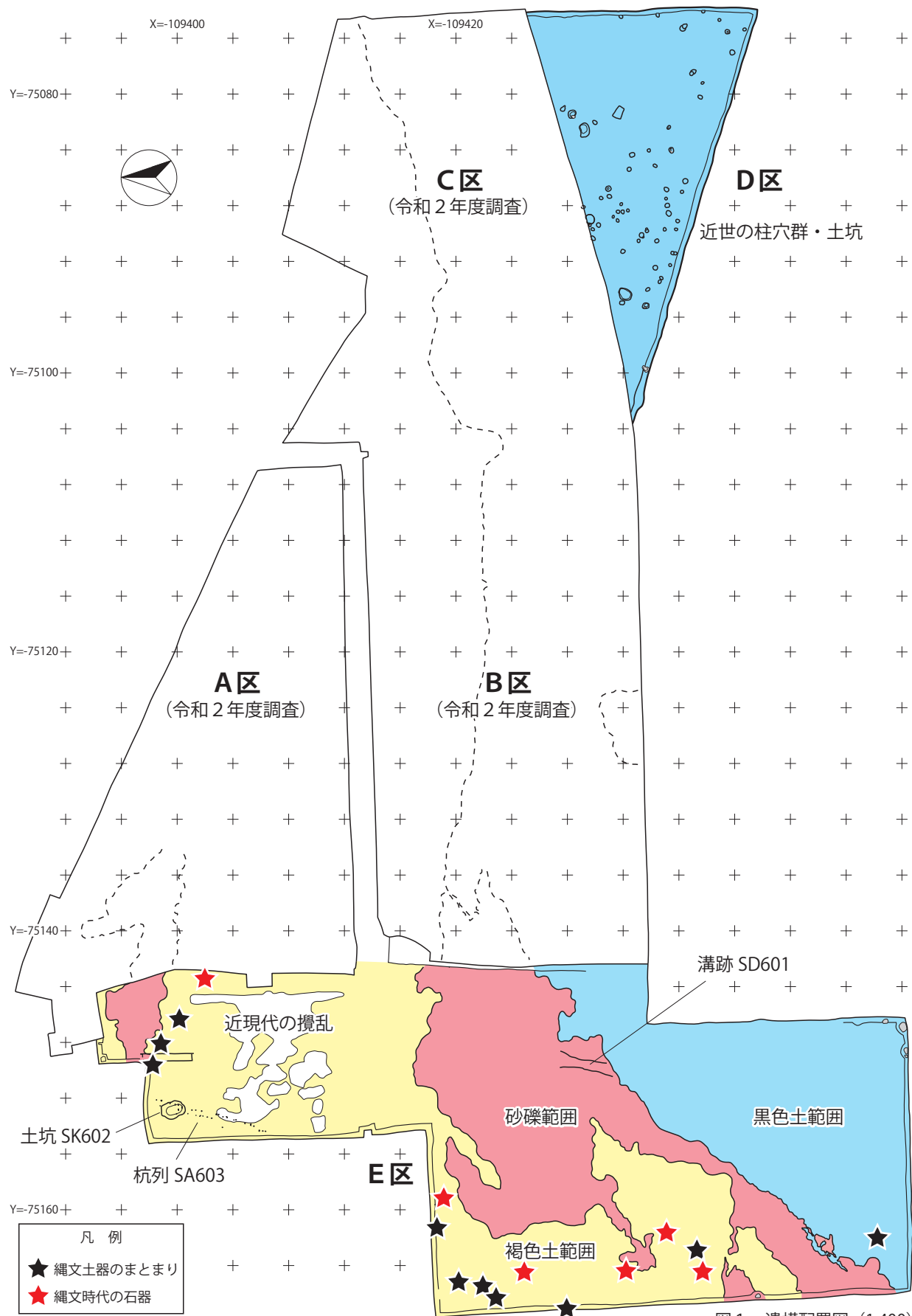


図1 遺構配置図 (1:400)

図1 杉沢C遺跡遺構配置図 (縮尺: 1/400)



写真 7 杉沢 C 遺跡調査区全体写真（北：左側）

みずばやしした 水林下遺跡（第2次）

遺跡番号 461-078
調査回数 第2次
所在地 山形県飽海郡遊佐町吹浦字水林下地内
北緯・東経 39度06分19秒・139度52分53秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起因事業 日本海沿岸東北自動車道（遊佐象潟道路）
調査面積 2,410㎡
受託期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日
現地調査 令和3年6月15日～11月30日
調査担当者 氏家信行（現場責任者）・大場正善
調査協力 遊佐町教育委員会、遊佐町地域生活課、山形県教育庁庄内教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 旧石器・縄文・奈良・平安・中世
遺構 掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱列・柱穴
遺物 石器・磨製石斧・縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器（文化財認定箱数：11箱）



遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

水林下遺跡は、県の北西端にある遊佐町^{めが}女鹿集落に隣接し、約9万年前に鳥海山より噴出した大平溶岩により形成した、溶岩台地の西端部に位置する。東には鳥海山を望み、西には日本海が広がる。標高は22～23mを測る。遺跡が所在する場所は、鳥海国定公園域内にあたる。現在、遺跡周辺は杉の二次林が広がっているが、1960年代頃まで耕作地として利用されていた。

本年度は、第2次調査に当たる。調査は、まず昨年度

の調査終了時にC区の遺構検出面上に敷いた保護シート、及びシート上の埋土の重機による除去から行った。その後、工程上C区を東・西・北に分けて未掘削部の重機による表土除去、及び手作業による面削りでの遺構検出、そして検出遺構の手掘りでの精査を行った。精査した遺構は、土層断面や平面、遺物出土状況などを写真、及び三次元解析で記録したうえで、完掘を行った。

遺構検出の結果、C区全体で多数の杭跡・柱穴、溝跡のほか、C区北より古代の竪穴建物跡2～3棟と、埋土に縄文時代中期の土器片を含む大型土坑とみられる遺構1基の存在が判明した。とくに、C区北は遺構分布が調査予定範囲からさらに東に延びることがわかった。そのため、国交省、及び県文化財振興・文化財活用課と協議し、C区北の東部を幅6m前後拡張し、表土掘削を行った。C区北については、本年度遺構検出までとし、それ以降の作業を次年度に行うこととなった。

昨年度の旧石器が確認されたB区に隣接するC区東では、遺構精査、及び記録作業が終了したのち、遺構検出面、すなわちローム層の掘り下げを行った。旧石器時代の調査は、昨年度と同様にグリッドに沿って2m×2mを基本とする小区画を設定しながら、手掘りで丁寧に

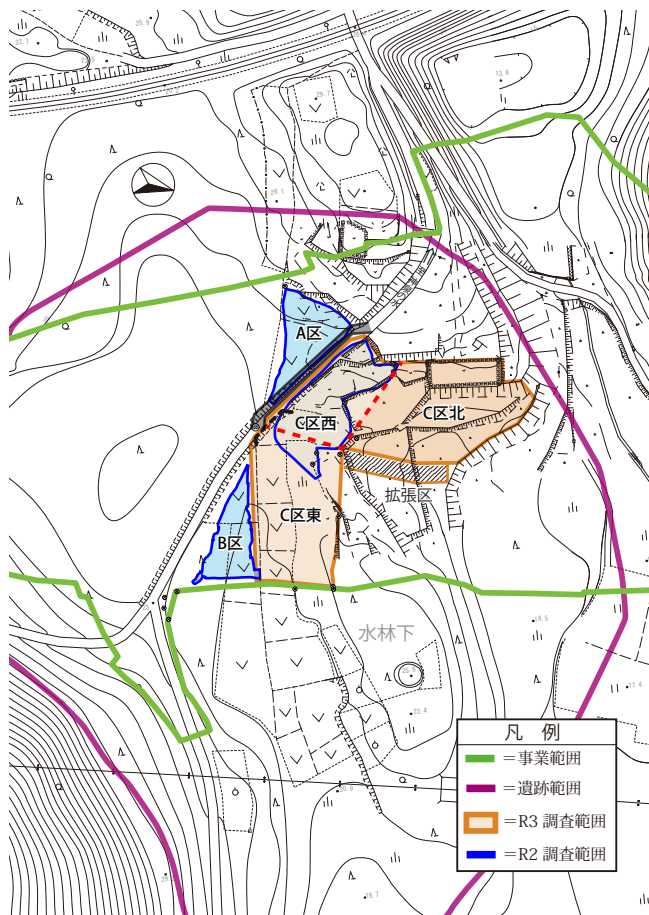


図1 調査区概要図 (1:2,000)

掘り下げて石器を検出していた、石器は全て出土地点を座標記録し、随時写真撮影を行い取り上げた。

遺構と遺物

今回の調査で見つかった主な遺構は、古代の竪穴建物跡、縄文時代の大型土坑、旧石器の石器集中部（石器ブロック）のほか、多数の杭・柱穴、溝跡等である。C区北の古代の竪穴建物跡と縄文の大型土坑等の遺構については、次年度以降に詳細が明らかになるであろう。

縄文時代の遺物は、中期初頭に位置づけられる新保式土器の破片や地紋のみの破片ほか、石鏃や石匙が少量出土した。古代の遺物は、須恵器の甕や壺、土師器の坏や甕、製塩土器の破片が多量に出土した。また竪穴建物跡 ST701 からはカマドの支脚が、ST793 の北西角からは、完形の土師器・坏が天地逆転した状態で発見された。このほか、調査区全体で近世～近現代の陶磁器が出土した。

旧石器については、昨年度の B 区で発見された石器分布の北側の続きとともに、基本層序Ⅳ層下部からⅥ層にかけて、B 区の石器分布のさらに北東に広がる新たな石器分布を確認した。そこで、B 区を中心とする約 8 m の範囲に広がる石器分布を第 1 ブロックとし、C 区東の第



写真1 遺跡遠景（北西から）



写真2 作業状況

1 ブロックの北東に隣接し、8～10mの範囲に広がる石器分布を第 2 ブロックと呼称する。

出土した旧石器の石器組成については、現在検討中であるが、台形石器、楔形石器、スクレイパー、ドリルのほか、石核、剥片、チップとなる。旧石器石材は、珪質頁岩、玉髄質頁岩、玉髄のほか、月山産と思われる黒耀石 1 点となる。

さらに、第 1・2 ブロックの中間付近からは、磨製石斧が発見された。この磨製石斧は、再加工等で著しく変形しているが、表面全体と裏面の中央部の一部に研磨面が認められる。今回発見された磨製石斧は、旧石器時代の発掘資料として県内初の事例となる。明治大学黒耀石研究センター・中村由克氏に鑑定を依頼したところ、北陸産の透閃石岩 D2 タイプであることが判明した。この D2 タイプの透閃石岩製磨製石斧は、秋田市地蔵田遺跡に次いで東北において 2 例目となる（透閃石岩製磨製石斧自体は、東北で 3 例目）。

まとめ

第 1 次調査出土の 4 点中 3 点の炭化物による炭素放射性炭素 14 年代測定（AMS）の較正年代では、信頼限界

(1σ)が68.27%で3.5～3.38万年前、信頼限界(2σ)が95.45%で3.5～2.8万年前の値が得られている。その年代値と石器群の組成や技術的な特徴から、水林下遺跡の石器群は、後期旧石器時代前半期の磨製石斧をともなう台形石器群として位置づけられる。出土した石器群、及び磨製石斧は、年代が明らかなものとして県内最古と言える。

今後の調査・整理において、後期旧石器時代前半期という早い段階で、鳥海山西麓においてヒトは何をしていたのかについて、明らかにしていきたい。(



写真3 透閃石岩製磨製石斧の出土状況（北から）



写真4 SB793のRP182土師器・坏出土状況（東から）



写真5 ST701検出状況（東から）



写真6 平安時代の須恵器（壺・甕）



写真7 平安時代の土師器（坏・甕・製塩土器）



写真8 縄文時代の土器と石器（深鉢・石鏃・石匙）



写真9 旧石器時代の石器（磨製石斧・楔形石器等）

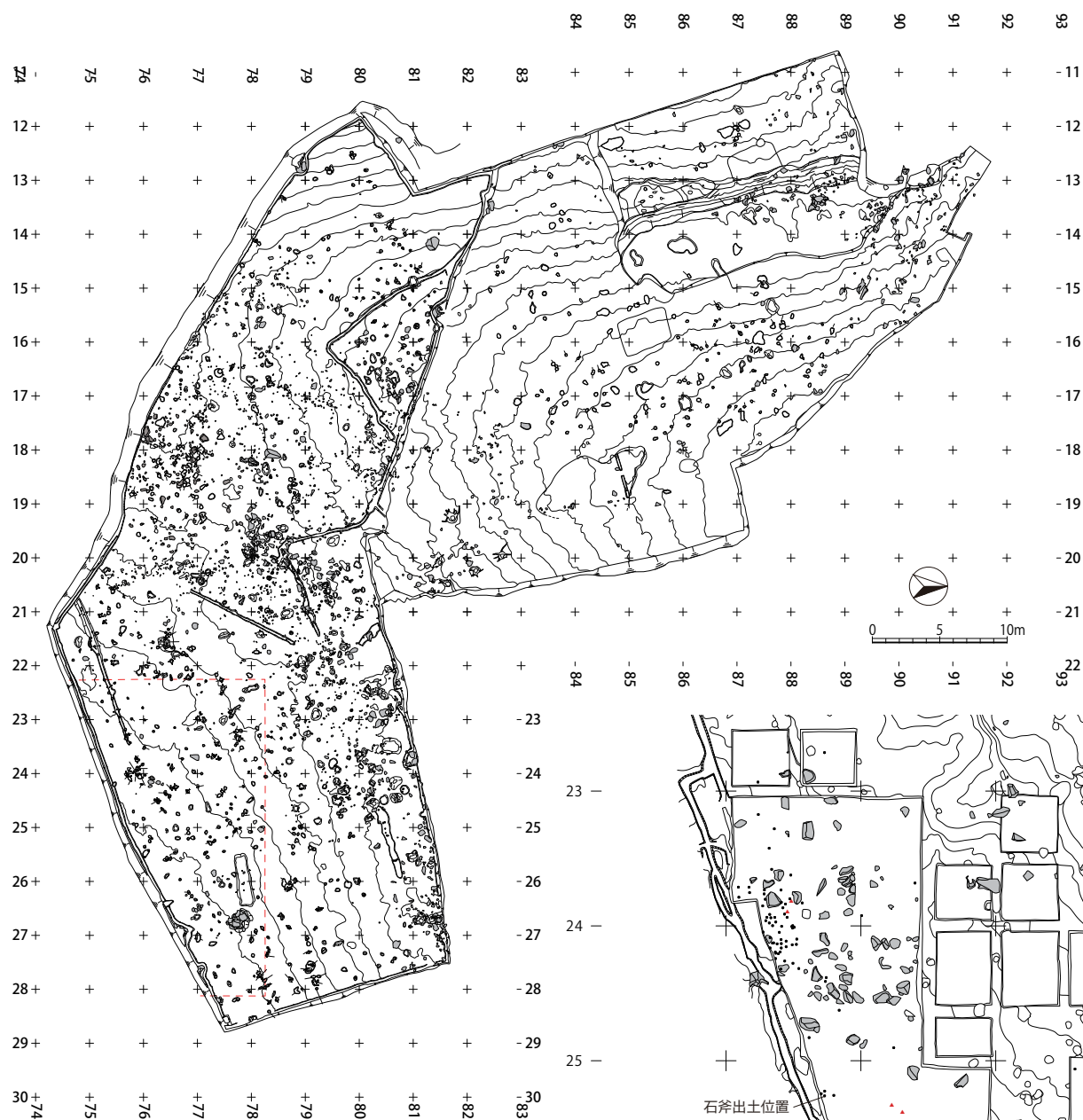


図2 遺構配置図 (1:500)



写真10 第1ブロック石器出土状況



写真11 楔形石器出土状況

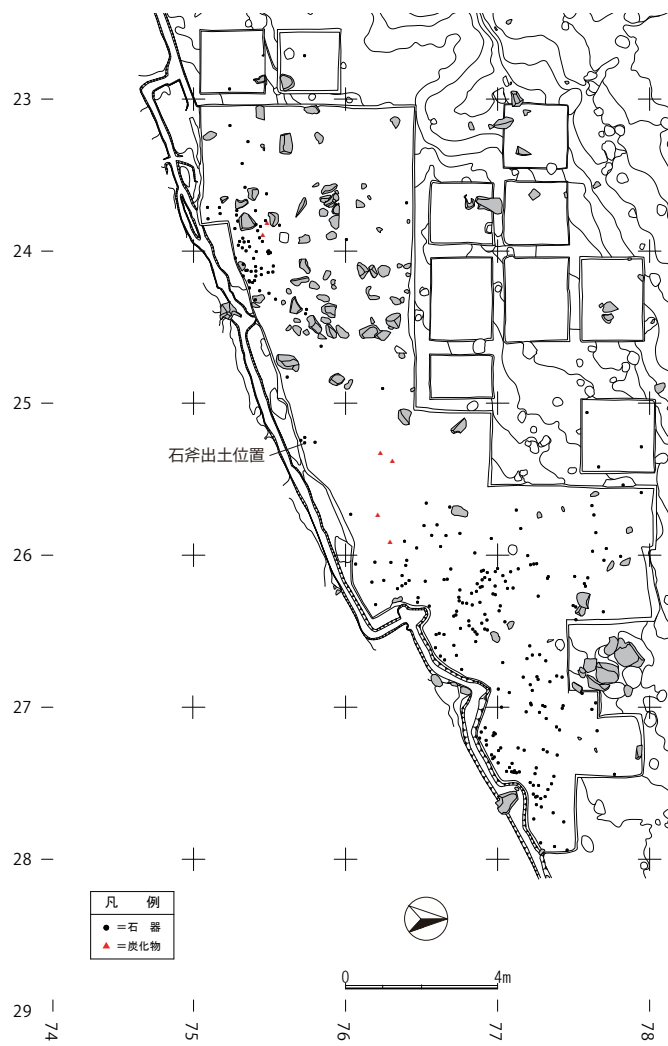
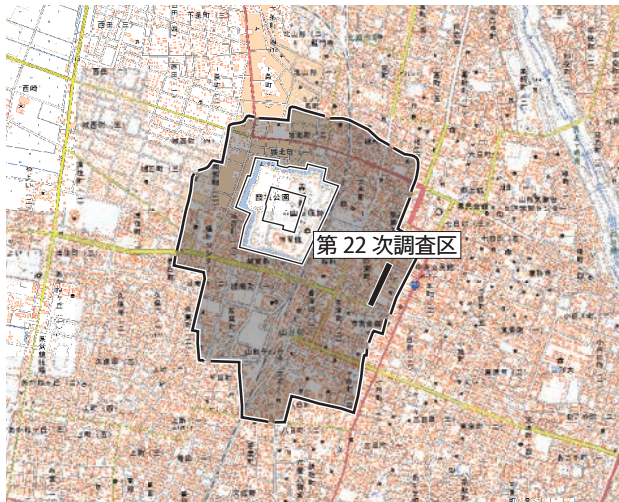


図3 旧石器分布図 (1:200)

山形城三の丸跡（第22次）

遺跡番号	201-003
調査回数	第22次
所在地	山形県山形市本町1丁目外 地内
北緯・東経	38度15分3秒・140度20分7秒
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部都市計画課
起因事業	山形広域都市計画道路事業3・2・5旅籠町八日町線
調査面積	830m ²
受託期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
現地調査	令和3年6月21日～10月28日
調査担当者	齋藤健（現場責任者）・渡辺和行
調査協力	山形市企画調整部文化振興課、山形県教育庁村山教育事務所
遺跡種別	集落跡・城館跡
時代	奈良・平安・中世・近世
遺構	竪穴建物跡・土坑・溝跡・柱穴
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・金属器・石製品・木製品（文化財認定箱数：27箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

山形城の本丸、二の丸は国の史跡に指定され、三の丸部分は「山形城三の丸跡」と別個に遺跡登録されている。山形城は、馬見ヶ崎川扇状地に14世紀後半に最上氏の始祖斯波兼頼により築かれたとされ、代々最上氏が居城としてきた。17世紀初頭には、最上義光により57万石の大名の居城として相応しい規模の近世城郭として三の丸まで拡張され、現在の山形市街地の原型となった。

しかし、義光の死後に発生した御家騒動により最上氏は改易される。その後入封した鳥居氏は馬見ヶ崎川の流路変更工事や山形五堰の整備、二ノ丸の大規模な改修を行い、現在の姿が完成された。

17世紀末以降山形藩は藩主が短期間のうちに度々変わり石高も徐々に減る。このことから、広大な城の維持は困難となり荒廃する。18世紀後半の秋元氏入封時には、本丸は更地となり二の丸内も小規模な建物が散見するだけで、藩主の屋敷は二の丸大手門の外に置かれた。藩士の住居も三の丸東半分にとめられ、三の丸の大部分は農地となった。武家屋敷の衰退に反比例し、城下町は紅花などの特産品を扱う富裕な商人が集住していたことや出羽三山参詣の拠点として大いに栄えた。

明治維新により山形城は廃城となり、三の丸の堀や土塁の多くは撤去され、三の丸内にも庶民が住居を構え市街地化が進み、新道を建設する新しい都市計画も実施される。しかし、戦後のモータリゼーションの発達により交通量が増大し、市街地での交通の停滞や事故の危険性が指摘されるようになる。そのため、幹線街路の利便性を高めるために山形広域都市計画道路事業が計画され、その一環として旅籠町八日町線を拡幅することとなり、

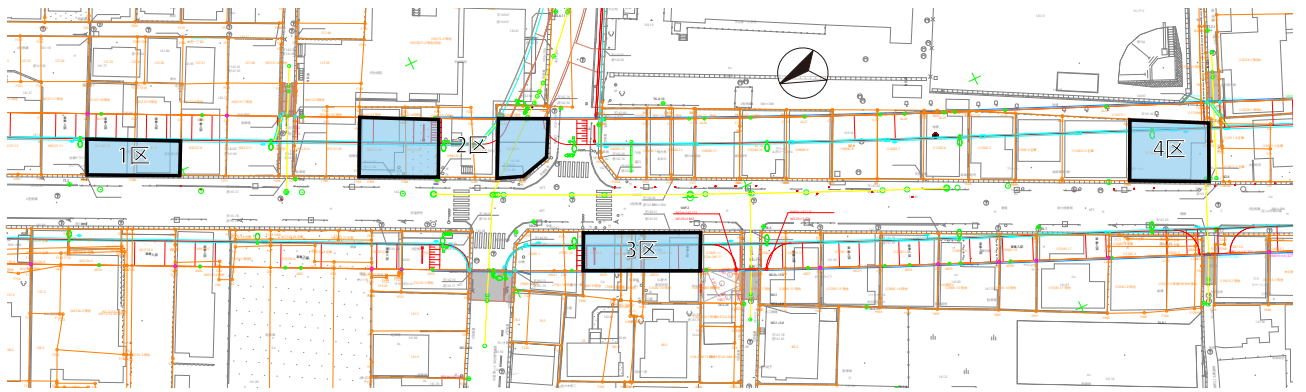


図1 調査区概要図 (1:1500)



写真1 2区竪穴住居跡（北から）



写真2 4区竪穴住居跡（西から）

三の丸跡の発掘調査を実施した。事業区内、今年度は830㎡で現地調査した。残りについては次年度以降、引き続き調査を行う。

遺構と遺物

今年度は、北から1～4区の4つの地区を調査した。1、2区には近世の遺構が検出された。2～4区では8世紀後半の遺構を確認できた。

1区からは直径2～3m、深さ1mほどの土坑が3基検出された。土坑には多数の大小の礫が詰め込まれ、18世紀代の瓦や陶磁器の破片を少量出土した。他にも同時期の溝跡や石組み遺構などが検出されている。

2区の北側は激しい攪乱を受けていたが、南側には大小の溝跡などの近世の遺構を検出した。出土遺物は18世紀代のものが多かったが、17世紀前半ぐらいのものも散見された。近世の遺構の下からは、一辺8mほどの竪穴住居跡が1軒検出され、8世紀後半とみられる須恵器や土師器などの遺物が出土した。

3区の南側は建物基礎により激しい攪乱を受けていたが、北側は残存状況が良好で一辺8m以上の竪穴住居跡を1軒検出され、8世紀後半とみられる須恵器や土師器

などの遺物が出土した。

4区は基本的に遺構の残存状況は良好であったが、一部が現代の攪乱により削平されていた。西壁面沿いに、出土遺物から近世と考えられる深い溝が南北方向に伸びているのを確認できた。また、一辺8mほどの竪穴住居を検出し、8世紀後半とみられる須恵器や土師器などの遺物が出土した。

まとめ

今年度の調査で、1、2区から近世の遺構を検出した。2～4区から8世紀後半の竪穴住居跡を検出した。江戸時代前期には有力家臣の屋敷地であったが、後期の秋元や水野期の山形城の絵図では、当該調査区付近には武家屋敷は無く、耕作地と記載されており、概ね事実であったと考えられる。

2区より南からは8世紀後半とみられる大型の竪穴住居跡が検出されており、次年度以降の調査でも同様の成果が期待できる。

残りの地区については、来年度以降に調査を行い、合わせて整理作業も進め、報告書にまとめて刊行する。

かみそね
上曽根遺跡（第3次）

遺跡番号 204-076

調査担当者 植松暁彦

所在地 山形県酒田市上野曽根字上中割

遺跡種別 集落跡

調査委託者 山形県庄内総合支庁建設部道路計画課

時代 奈良時代・平安時代・近世

起因事業 一般国道344号道路改良事業

受託期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

現地調査 令和元年6月4日～12月6日

作業工程表		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
作業項目	記録類整理				完了								
	遺物洗浄	完了											
	注記	完了											
	接合・復元				完了								
	実測				完了								
	拓本		完了										
	トレース							完了					
	写真撮影				完了								
	編集・レイアウト									完了			
	原稿執筆									完了			
	遺物・記録類収納											完了	
	印刷・製本												完了



接合・復元



実測



拓本



トレース



写真撮影



編集・レイアウト



原稿執筆



遺物・記録類収納



印刷・製本

川前2遺跡（第5次）

遺跡番号 201-244

調査担当者 高桑弘美

所在地 山形県山形市大字中野目地内

遺跡種別 集落跡

調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所

時代 古墳時代・奈良時代・平安時代

起因事業 須川河川改修事業

受託期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

現地調査 平成30年6月6日～11月2日

作業工程表		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
作業 項目	記録類整理					完了							
	遺物洗浄	完了											
	注記	完了											
	接合・復元	完了											
	実測	完了											
	拓本				完了								
	トレース	完了											
	写真撮影					完了							
	編集・レイアウト										完了		
	原稿執筆										完了		
	遺物・記録類収納												完了
	印刷・製本												完了



写真撮影



遺物図版レイアウト



遺物図版編集



遺物実測図点検



写真図版編集



原稿執筆



遺物収納準備



遺物収納



印刷・製本

2. 普及・啓発・研究等業務

(1) 研修等

全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業

ア 総会

期 日 令和3年6月17日

新型コロナウイルス感染症予防のためオンラインにて開催

イ ブロック会議

期 日 令和3年11月10日

新型コロナウイルス感染症予防のため書面開催

ウ 研修会

新型コロナウイルス感染症予防のため中止

(2) 普及啓発

① センター公開事業

	実施日	事業名	開催場所	人数
1	7月26日～8月20日	夏休みこどもミュージアム	山形県埋蔵文化財センター	66
2	11月7日	考古学お仕事体験	山形県埋蔵文化財センター	30

(3年度実績 96名)

考古学お仕事体験



② 発掘調査速報会

	実施日	会場	人数
1	3月6日	山形県生涯学習センター 遊学館（ホール）	89



③ 市町村巡回展示会

	実施日	会場	人数
1	8月2日～8月12日	庄内町響ホール	37
2	9月22日～10月3日	新庄市市民プラザ	52
3	1月17日～1月28日	河北町サハトベに花	63

(3年度実績 152名)



庄内町響ホール



新庄市市民プラザ



河北町サハトベに花



④ 出前授業

	実施日	学校(団体)名	人数
1	4月27日	袖崎小学校(村山市)	21
2	5月11日	西山形小学校(山形市)	9
3	6月4日	明安小学校(金山町)	8
4	6月9日	小松小学校(川西町)	31
5	6月10日	宮野浦小学校(酒田市)	69
6	6月11日	大泉小学校(鶴岡市)	20
7	6月15日	中郡小学校(川西町)	18
8	6月16日	西川小学校(西川町)	34
9	6月22日	渡前小学校(鶴岡市)	11
10	6月23日	富並小学校(村山市)	12
11	6月25日	出羽小学校(山形市)	49
12	6月28日	手ノ子小学校(飯豊町)	8
13	7月1日	南沼原小学校(山形市)	149
14	7月2日	広瀬小学校(鶴岡市)	34
15	7月8日	宮浦小学校(山形市)	39
16	7月13日	斎小学校(鶴岡市)	17
17	7月21日	犬川小学校(川西町)	9
18	12月16日	山形大学附属中学校(山形市)	17

(3年度実績 18校開催 555名)



⑤ 体験学習会

	実施日	事業名	開催場所	人数
1	8月22日	発掘体験 in 杉沢C遺跡	杉沢C遺跡（遊佐町）	21

発掘体験 in 杉沢C遺跡



⑥ 遺跡体感ツアー

	実施日	事業名	開催地	人数
1	10月24日	遺跡体感ツアー in たかはた	高島町安久津地区	25



安久津古墳群・安久津支群



安久津八幡神社・三重塔



安久津八幡神社・本殿



安久津古墳群・鳥居町支群



清水前古墳群



瓜割石庭公園

⑦ 出土品等貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	東根市教育委員会	東の杜（歴史資料館）展示のため	4月1日～3月31日	小田島城跡	7
2	舟形町教育委員会	舟形町歴史民俗資料館及び縄文の女神まつり展示のため	4月11日～11月30日	西ノ前遺跡	64
3	山辺町立相模小学校	6年社会科学習の資料として使用	4月22日～4月30日	宮の前遺跡・かつば遺跡・百刈田遺跡	6
4	福井陶芸館	福井陶芸館開館50周年特別展前期「ECHIZEN BRAND ー海をわたる褐色のやきものー」展示のため	5月11日～10月18日	藤島城跡	23
5	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	令和3年度特別テーマ展「小国町の考古学」展示のため	5月19日～9月14日	下叶水遺跡ほか6遺跡	294
6	山形県立博物館	特別展「1971ーやまはく誕生物語ー」展示のため	6月1日～9月5日	西ノ前遺跡	3
7	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第29回企画展「山形県の近世城郭と出土品」展示のため	7月1日～12月12日	米沢城跡・鶴ヶ岡城跡ほか2遺跡	248
8	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェア展示のため	9月17日～10月5日	西海淵遺跡・山居遺跡ほか11遺跡	107

⑧ 資料掲載許可

No.	許可先	借用目的	資料名	数量
1	笠間市教育委員会	「季刊 韓国の考古学」52号掲載のため	中野目Ⅱ遺跡	10
2	株式会社 山形新聞社	山形新聞 月曜特集「ふるさとの文化財」掲載のため	宮の前遺跡	1
3	株式会社 亜璃西社	「北海道 縄文の暮らしと文化」掲載のため	宮の前遺跡	1
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	令和3年度特別テーマ展「小国町の考古学」掲載及び展示のため	下叶水遺跡ほか6遺跡	31
5	山形県立博物館	山形放送「サンデー5」山形県立博物館50周年の展示風景放送のため	西ノ前遺跡	3
6	最上町教育委員会	令和3年度広報誌（7月号）掲載のため	水木田遺跡	1
7	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第29回企画展「山形県の近世城郭と出土品」展示及びチラシ掲載のため	米沢城跡ほか3遺跡	25
8	最上町教育委員会	令和3年度広報誌7月号に掲載のため	水木田遺跡	1
9	郡山女子短期大学大学部	寒河江市埋蔵文化財フェア講演会資料で使用するのため	西ノ前遺跡	5
10	大蔵村教育委員会	町村広報誌で縄文文化を紹介するため掲載のため	上竹野遺跡	2
11	木簡学会	会誌『木簡研究』の電子化およびインターネットでの公開	境田C遺跡	1
12	寒河江市教育委員会	「上の寺遺跡総括報告書」作成のため	上の寺遺跡・木の沢楯跡	99

⑨ 来所者

ア. 見学・研修等

No.	来所者	期日	人数	内容
1	個人（仙台市）	6月3日	1	施設見学
2	個人（上山市）	6月4日	2	施設見学
3	山形県立うきたむ風土記の丘 考古資料館 職員	7月29日	2	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
4	山形県立うきたむ風土記の丘 考古資料館 職員	8月6日	2	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
5	山形市あかねヶ丘町内会	11月4日	14	施設見学
6	上山市立南小学校 第2学年	11月19日	92	施設見学

イ. 図書閲覧

No.	来所者	期日	閲覧目的
1	個人（仙台市）	6月21日	研究のため
2	個人（寒河江市）	9月24日	

ウ. 資料調査

No.	来所者	期日	対象遺跡
1	東北芸術工科大学 学生	5月19日	縄文原体レプリカ（中川原C遺跡）
2	東北大学 大学院生	6月1日	三本木窯跡・平野山古窯跡群 蛇崩窯跡・達磨寺遺跡
3	駒沢大学 大学院生	6月2日	小松原窯跡・泉森窯跡
4	東北大学 大学院生	6月2日	清水西遺跡
5	公益財団法人福島県文化振興事業団 職員	7月5日	山楯楯跡
6	仙台市縄文の森広場 職員	9月27日	上大作裏遺跡
7	山形大学 学生	11月16日・17日	今塚遺跡
8	朝日大学 教員	11月26日	八反遺跡
9	新潟県埋蔵文化財調査事業団 職員	12月1日	上竹野遺跡・北柳1・2遺跡
10	弘前大学 教員	12月2日	川口遺跡・宮の前遺跡
11	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 職員	12月22日	清水西遺跡・水林下遺跡
12	個人（山形市）	12月27日	宮の前遺跡

⑩ 調査成果一般公開

No.	市町村	遺跡名	公開期間	遺跡種別	見学者数
1	遊佐町	水林下遺跡	11月8日～12日	集落跡	8

⑪ 職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員	期日	内容
1	最上義光歴史館	最上義光歴史館	後藤枝里子	4月5日 6日	資料の撤収及び梱包作業の指導
2	佐世保市教育委員会	福井洞窟ミュージアム	大場正善	4月25日 26日	福井洞窟ミュージアムに関する指導・助言
3	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場正善	5月29日	石器作りの技術指導
4	山形県	山形県生涯学習センター	高桑弘美	6月10日	山形県文化財保護審議会
5	山辺町教育委員会	山辺北部公民館	黒坂雅人	6月17日	安達峰一郎博士顕彰会理事会
6	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂雅人	7月12日	山辺町文化財保護審議会
7	山形市	山形市役所	高桑弘美	8月20日	山形市文化財保護委員会
8	山形県	東北芸術工科大学	高桑弘美	9月14日	山形県文化財保護審議会
9	酒田市教育委員会	酒田市役所	植松暁彦	9月29日	酒田市文化財保護審議会
10	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	菅原哲文 高桑 登	10月17日	第23期考古学セミナー 講師
11	喜多方市教育委員会	藤権現遺跡・駒形地区公民館	小林圭一	11月1日 2日	藤権現遺跡の遺構と出土遺物についての指導・助言
12	古代城柵官衙遺跡検討会	東北歴史博物館	植松暁彦	11月26日	古代城柵官衙遺跡検討会世話人会
13	山形県	山形県郷土館「文翔館」	黒坂雅人 草野潤平 梅津里枝 後藤枝里子	11月28日	やまがた伝統文化フェスタ縄文文化体験
14	大江町教育委員会	大江町中央公民館	梅津里枝 後藤枝里子	12月4日	史跡左沢楯山城跡保存整備事業現地見学会・火起こし体験
15	東北日本の旧石器文化を語る会	東北大学（オンライン）	大場正善	12月25日	東北日本の旧石器文化を語る会
16	宮城県旧石器研究会	東北大学	大場正善	1月15日	宮城県旧石器研究会
17	山形県	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	高桑弘美	2月2日	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館運営協議会
18	酒田市教育委員会	酒田市総合文化センター	植松暁彦	2月18日	酒田市文化財保護審議会
19	山形市文化財保護委員会	山形市役所	高桑弘美	2月22日	山形市文化財保護委員会
20	山形県	山形県庁	高桑弘美	3月10日	山形県文化財保護審議会

⑫ 研究紀要

『研究紀要』第14号に掲載した論文のタイトルと執筆者は以下の通りです。

- ・長井盆地の縄文時代中期から後期前葉の集落跡…………… 菅原哲文
- ・酒田市蕨台遺跡の出土遺物について…………… 植松暁彦

⑬ 出版物

ア. 一般公開資料

書 名	発行年月日
水林下遺跡現地公開資料	2021 年 11 月 8 日

イ. 調査報告書

シリーズNo.	書 名	発行年月日
244	川前2遺跡第5次発掘調査報告書	2022 年 3 月 31 日
245	上曽根遺跡第3次発掘調査報告書	2022 年 3 月 31 日

ウ. 遺跡・史跡パンフレット

書 名	発行年月日
やまがたの遺跡史跡めぐり Vol.1	2022 年 2 月

エ. その他

資料名	発行年月日
令和3年度年報	2022 年 5 月 6 日
研究紀要 第14号	2022 年 3 月 31 日

⑭ ホームページ

主な項目と内容は以下の通りです。

- ・センター概要 センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供
- ・発掘調査遺跡一覧 発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
- ・発掘調査速報 調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
- ・イベント情報 埋蔵文化財センター考古学講座、調査説明会、各種イベント情報の提供
- ・センター刊行物案内 調査報告書、発掘調査説明会資料、研究紀要などの刊行物の紹介
- ・埋文やまがた web 版広報誌「埋文やまがた」の紹介、およびバックナンバーの閲覧とダウンロード
- ・発掘調査遺跡地図 埋蔵文化財センターがこれまで発掘調査し報告書を刊行した遺跡の紹介

⑮ SNS 情報発信

Twitter により山形県埋蔵文化財センターの普及啓発活動やイベント等の案内を発信

(3) 情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書 1,634 冊のデータ入力実施 (File Maker Pro 使用)



ISSN 1341 - 397X

年 報

令和3年度

2022年5月6日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
TEL 023-672-5301 (代)



当センターの記章としているこの
図柄は、

Yamagata
Archaeology
Center

の3つの頭文字をあしらったもので
す。特にYは、国宝「縄文の女神」
をイメージしています。